

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校

学校番号	26
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成	
2 評価する領域・分野	◇専門教育推進部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。(生徒76%) →改善の余地(24%)があると捉え、個別学習・グループ学習等、アクティブラーニングによる「わかる授業」を充実させ、成果の一つの形である資格取得の取得率向上を図る。</li> <li>・外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習機会を、生徒の安全に配慮しながら適切に提供している。(生徒88%) →各学科・類型の特色を生かし、地域社会と連携した実践的な学習機会の充実が求められている。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学科・類型の目標とする検定資格の取得率向上と実践教育の推進 (1) 「分かる授業」・「魅力ある授業」等アクティブラーニング導入による指導方法の実施 (2) 学科・類型の目標とする検定資格の取得 (3) 地域社会との連携・地域教育力を活用した実践教育の充実	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教育推進部全体として取り組む</li> <li>・学科主任と各類型長との連携</li> <li>・科目担当者間の連携</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業展開の工夫、遅進者への手立てや検定資格取得対策の実施 (2) 大学・地域・企業と連携した特別講座の実施	(1) 学科・類型の目標とする検定・資格の取得者数 (2) 成果物や参加した生徒の感想・アンケートによる把握	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
◇授業進度を習熟度別にし、個々の理解度に応じた方を科目「簿記」において実施 ◇検定資格取得に向けた対策として、放課後の学習会、実習室の開放の実施 ◇ビジネス科：地元企業との連携講座(商品開発) 大学との連携講座(起業家教育講座) 等	①習熟度の実施により、授業での遅進が解消されたか。 ②目標とする検定資格取得ができたか。 ③専門的な知識や技術を身に付けると同時に、それらを活用し地域社会に貢献する力を発揮できたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果・課題	○前期は、地元企業と連携した商品開発・課題研究の取組を対面授業にて、計画的に進めることができた。連携講座では、地域理解を深めるとともに、日々の学習内容の重要性や意義を認識し、学習意欲の向上につなげることができた。 ▲年間を通して、検定前に学習会や実習室の開放を行い、検定・資格取得に向け意識を高めることはできたが、目標とする検定・資格を全員取得できていない。1つでも多くの検定資格を取得させるため、今後更に科目担当者間の連携を密にし、検定資格の取得率向上に向けた対策を図りたい。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科主任、各類型長、科目担当者間の連携を密にし、連携講座の充実及び検定資格の取得率向上を図る。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日 :令和6年1月23日

### 【意見・要望・評価等】

・大垣市は、上場企業が多く恵まれた地域である。今後も多くの企業と接点を持ち、幅広い情報を得て、実践的な学習

につなげてほしい。

- 企業との連携においては、商品開発の工程などで、企業は大きな負担がかかる。今後、テストマーケティングデータを収集し、企業に情報を提供するなど、フィードバックすることも必要ではないか。